

受賞取組一覧

年度	最優秀賞	優秀賞
平成 29 年度	発達障害や軽度知的障害のある方の運転免許取得支援	・イルミネーションを中心とした子どもたちの健全育成及び地域活性化 ・図書館プロジェクト
平成 30 年度	はが路 100km 徒歩の旅	・子どもも里山も輝く「子どもの里山」事業 ・栃木県産材の認知度向上に向けた広報活動
令和元年度	障がいがあってもなくてもみんなが楽しい音楽の集い	・地域の力とCTを活用した那須地域の魅力発信 ・地域全体に笑顔が広がる清掃活動
令和 2 年度	環境保全・環境教育・環境調査の多岐にわたる活動	・県指定史跡児山城址の景観保全と利活用による地域活性化 ・「那須開墾社第二農場跡地」の環境保全・維持活動
令和 3 年度	地域の方々との温かい触れあいで自立援助ができる笑顔あふれるコミュニティづくり	・地域の宝『磯山』を守り・育て・活かす ・多文化共生★蔵の街清掃活動
令和 4 年度	渡良瀬川源流域の森再生プロジェクト	・SDGsでこどもを応援 ・大柿地区の豊かな自然を守り・活かし次世代が活躍出来る場所の創出 ・ラジオで発信!多文化共生のまちづくり
令和 5 年度	地域の子どもに家庭でも学校でもない第三の居場所を	・誰ひとり孤立させないこころを繋ぐ「真ごころカード」活動 ・残された里山林を再生する協働・連携による環境保全活動 ・「ヒト」と「モノ」が災害支援に繋がるネットワークづくり
令和 6 年度	食を核とした、困難を抱えたひとへの重層的な支援	・学生主導の中間支援ネットワーク構築のプロジェクト ・「手話でシュワッチ!」の取組

過去の実績や表彰式の詳細については
栃木県公式ホームページを御覧ください。
<https://www.pref.tochigi.lg.jp/c01/gagayakutotigi.html>



【輝くとちぎの人づくり推進基金への寄附に御協力ください】

輝く“とちぎ”づくり表彰は、輝くとちぎの人づくり推進基金への寄附金を活用し、実施しています。輝くとちぎの人づくり推進基金は、女性や若者、高齢者や障害のある方をはじめ、県民誰もがそれぞれの能力を十分に発揮しながら地域づくりの担い手として活躍することができるよう設置しているものです。

皆様からの温かい御支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。
<https://www.pref.tochigi.lg.jp/c01/life/hitokikin/sougouannai.html>



【問合せ先】
栃木県 生活文化スポーツ部 県民協働推進課 協働・多文化共生室
Tel : 028-623-3422 E-mail : kyodo@pref.tochigi.lg.jp



令和6(2024)年度 輝く“とちぎ”づくり表彰 表彰事例の紹介

栃木県 生活文化スポーツ 部長	最優秀賞 「食を核とした、困難を抱えたひとへの重層的な支援」 受賞者代表	栃木県 副知事	優秀賞 「学生主導の中間支援ネットワーク構築のプロジェクト」 受賞者代表	優秀賞 「『手話でシュワッチ!』の取組」 受賞者代表
-----------------------	--	------------	--	----------------------------------



令和6(2024)年度輝く“とちぎ”づくり表彰表彰式〔令和6(2024)年11月6日栃木県庁昭和館4階正庁にて〕

輝く“とちぎ”づくり表彰とは、NPO・ボランティア団体が地域課題の解決に向けて行う、栃木県内における優れた社会貢献活動を表彰するものです。

令和6(2024)年度は、創意性・成果・発展性・波及性・連携度(協働の取組の場合)の観点から総合的に評価を行い、最優秀賞・優秀賞に選ばれました3つの取組を御紹介します。

最優秀賞

取組名：食を核とした、困難を抱えたひとへの重層的な支援

取組団体

特定非営利活動法人フードバンクあしかが /
足利市 / 社会福祉法人足利市社会福祉協議会

解決すべき地域課題等

- ・貧困家庭の困難は複雑で、多くの場合は食糧支援だけでは解決できず、多方面からの重層的な支援が必要なこと。
- ・民間の支援活動に加え、公的な制度へ繋ぐ活動や、個々の家庭の状況に応じた柔軟で長期的な対応が求められていること。

課題解決のための主な取組と成果等

- ・フードバンクが困窮者への食品提供をきっかけに、行政の生活相談や社会福祉協議会が実施する地域福祉事業の場面で、行政と民間が連携して困窮者支援を行う関係づくりを行う等、困難を抱える市民を重層的に支える仕組みづくりを構築。
- ・取組を支援するため、多くの企業(R6.7月時点で約180社)がそれぞれの事業の特性を活かし連携・協力。
- ・生活上の困難を抱えていながら行政への相談に躊躇している又は相談窓口を知らない市民が、フードバンクへの食品依頼(市民のSOS)をきっかけに、行政の相談支援につながり、困難を解決する機会を得られること。
- ・問題が深刻化する以前に、早期に支援につなげられること。
- ・フードバンクは生活相談の術を持たず、行政は食品譲渡等の支援は難しいが、双方が連携し、補い合うことで困難を抱える市民を重層的に支えることができ、自立への一歩につながっていくこと。

選考委員のコメント

協働とは、多様な主体が地域における課題解決のために対等の立場で、互いの違いを認め補い合い、目的を共有しながら連携・協力していくことです。

この取組は、食品提供のできるフードバンクと、生活相談を受けることのできる行政・社協がそれぞれの特性を活かし連携することで困窮者に対して効果的な支援を行っています。これは他市町におけるフードバンクの活動のモデルとなるような取組であると高く評価できるものです。

また、活動に対して多数の企業がそれぞれの業種に応じた多様な支援を行っている点や、ひとり親家庭に食品配布のターゲットを絞ってアプローチをするなどの工夫が見られる点も評価されました。



マルサンエキスポでの活動の様子



ヤクルト健康まつりでの活動の様子



食品のパッキングの様子

優秀賞

取組名：学生主導の中間支援ネットワーク構築のプロジェクト

取組団体

学生団体 Rainbow / 特定非営利活動法人シェアハッピーエール /
栃木県立佐野高等学校SGクラブ「つなぎ人」班 / 小山市地域おこし協力隊 /
特定非営利活動法人栃木県防災士会 / From point to Line /
大平南小おやじの会 / 栃木県立佐野高等学校・同附属中学校 / 栃木市立大平南小学校 /
鹿沼市立栗野中学校 / 有限会社富永石油店 / 友愛ライオンズクラブ /
とちぎアレルギーの会 / ゆいのマルシェ / any feel coffee

解決すべき地域課題等

- ・令和元年台風19号による水害の経験から、県民の防災・災害への意識や対応に重要な課題があること。
- ・災害・防災を始め、地域の様々な課題への対応においては、多様な主体との「公益ネットワーク」の構築が必要であること。

課題解決のための主な取組と成果等

- ・学生団体 Rainbow が中心となり多様な主体との「公益ネットワーク」を構築し、令和6年1月に発生した能登半島地震における被災地支援においてはネットワークを活かし迅速に支援を実施。
- ・「公益ネットワーク」に参加・協力団体等の拡大に向けた活動及び取組を実施することで、地元の学校・企業・団体など、様々な主体とつながり、平時と災害時の役割等を確認している。

選考委員のコメント

若い世代が「中間支援組織」に着目して様々な主体の中心となってネットワークを構築し、そのネットワークを活用して地域の防災教育や能登半島地震における被災地支援に取り組んでいます。また、今般、この取組に携わる中高生が、活動で培ったノウハウを活用してこれまで以上に主体的に活動し、自分達に続く中高生も育成しながら社会貢献活動の担い手として地域を主導するなどしています。

こうした活動が更に大きく発展し得る将来性が評価されました。



防災減災活動の様子

取組名：「手話でシュワッチ!」の取組

取組団体

ジュニアあすか / 株式会社とちぎテレビ / 株式会社栃木放送

解決すべき地域課題等

- ・聴覚障害者の言語である「手話」は、多くの人に認知されているが、手話を学ぶ機会や手話に接する機会が少ないこと。
- ・背景には、東京パラリンピックの開催や、第22回全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」の開催、栃木県障害者コミュニケーション条例の施行(R4.4.1)等、障害者への更なる理解促進及び共生社会の実現に向けての機運の高まりがあったこと。

課題解決のための主な取組と成果等

- ・視覚言語である手話を言葉で説明する企画番組、手話紹介コーナー企画や手話歌の導入等。
- ・若者が参加する手話団体とコラボし、様々な年代の県民が手話と触れる機会等を提供。

選考委員のコメント

栃木県では、これまでも障害者差別解消推進条例が施行されるなど共生社会の実現に向けた取組が進められています。この取組は、本県で開催された「いちご一会とちぎ大会」を契機に、ラジオやテレビ番組を通じて子どもたちが主体的に楽しみながら手話の紹介を行っています。

それらが手話の普及啓発にとどまらず、福祉教育の観点からも高く評価されました。



撮影の様子